



譚 巴拉ード 歌

雲 晴

秋彼岸号

「雲 晴」第五十六号

令和七年九月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六―五
電話 (〇三三) 三六二七―三四一五
FAX (〇三三) 五六九九―五九一五

⑥ 平等利益 (われも他のものも)

ひとりの わがままは やがて 多くの 人々と 決して 無縁ではない

ひとりの 私欲は やがて 万人を 損じ
ひとりの 無欲は 万人を 益することも 決して 無縁ではない

万人のための 個の力は まことに 微弱である
万人におよぼす 個の力は しかし 強力である
個人を離れて 万人はなく 万人を忘れて 個人はないからである
共存共栄は 天の理であり 人の心である

わが一人だけの 存在はない もろびととともに 生きるがゆえに 共存の世界である
願わくは もろもろの衆生とともにとは 仏の道である
わが一人ではない 願わくは もろもろの衆生とともに 安楽国に往生を願いたい

皆ともどもに 仏道を成ずるのである 一人の 落ちこぼれも 許さない

わがために 益することは 悉く他のために 平等に益することである
一人のために 利あることは みなもろともに ともどもに 平等に利することを願うのである
平等利益の仏説を思う





① どこにも行けない「門」

「門」をタイトルとして小説を書てみましょう。そんなお題が出されたら、みなさんはどんな「門」を書きますか。内の世界と外の世界を隔てる門は、非常に象徴的なモチーフです。そんなお題を出されたのが夏目漱石です。新たな連載小説の題名を求められた漱石は弟子の森田草平に決定を任せますが、そこで選ばれたのが『門』（明治四三）でした。

本作は、親友を裏切り結婚した主人公・宗助が罪悪感に悩み苦しむ物語です。題を付けた森田はなかなか門が描かれず気を揉んだといひます。終盤でや

っと登場するのですが、この描き方がまさに漱石らしいのです。罪の意識に苦しむ宗助は、信仰の世界に救いを求めます。悟りを開こうと参禅するものの、結局悟ることもできません。そこで宗助は寺の門の下に佇み、こう考えるのです。自分は門の外の俗世で生きていくことも、門の内の信仰の世界に入ることもできない。こうして門の下で時が過ぎるのを待ち続けるのだ――。このエピソードは、作家自身の参禅体験が下敷きになっているといひます。当時、多くの知識人が仏教世界に救いを求めました。漱石は人生における「宙づり」の苦しみを書いたといひれますが、まさにそんな「どこへも行けない」苦悩を象徴する「門」なのです。（富永真樹）

華

花ひらひて
實をむすぶ

好胤

⑪ あの蝙蝠くんたちへ

高田 都耶子

母方の曾祖父は1923年（大正十二年）に山手線の大崎駅近くで工場を設立しました。やがて大東亜戦争の戦況悪化を受け、工場への空襲を案じて自宅を移すことにしました

が、その条件は水が美味しい場所だったそうです。今私が住んでいるのはそんな土地であります。「この辺りは湧き水が豊かでね、道の両側に

は湧水が流れてて、夏は道への水撒き、近所の子供達の水遊びにつて、賑やかでだったのよ」懐かしげに母が言っていました。

曾祖父の家の南には道を隔てて池があり、魚が泳ぎ、翡翠が棲んでいる地でした。私がここに引っ越して二十年程前、池の辺りにはたくさん

前の木の枝でも羽を休めていあることとがあり、知らずに水遣りをしたときには、驚いた蝙蝠はバタバタと慌てて飛び立ったこともありした。

蝙蝠には悪いイメージが付きますが、チャイナでは「蝠」は「福」に通じると、縁起の良い動物とされてきたのです。拙宅でも蝙蝠柄の伊万里皿を愛用していて、私は蝙蝠の

一口法話



「誠の心」

ある修行中の若い僧侶がお師匠様について法事に行った後、食事に同席することになりました。その家は四代続いた料理店で、若い僧侶にとっては珍しい料理ばかり。有り難く頂戴していると、お師匠様が「食べきれないので私の分も食べてくれ」と言われ、食べ盛りの修行僧「頂戴します」と、お師匠様の分も頂いておりました。

しばらくすると、お師匠様が「何か感じないか」と尋ねられます。そこで、「私が頂いた料理とお師匠様から頂戴しました料理は同じもののに、お師匠様のは味が薄いように感じました」と言うと、お師匠様は「気付いたか。このお店は、あらかじめ料理に薄味をつけておき、男性か女性か、若い方か年輩の方か、あるいは体力を使う方かそうでない方かを見極め、味を調えてから出し



最良です。

気が付けば、池の周りを所狭しと元気に飛んでいた蝙蝠は近年すっかり姿を消しました。鮎とカルガモの親子がいてくれるのがせめてもの救いとなりました。

さて福岡県の宗像市の離島での実験だつと記憶していますが、合成洗剤から昔ながらの無添加石鹼に切り替えたところ排水の汚れが減少して、水質が改善されたと読んだことがあります。お向かいのご主人から無添加の固形石鹼をもらい、台所も浴室も洗髪も天然由来の洗剤に変えました。歯磨きはハッパ水でしています。



高田雅子画

そして今思い出されるのが「ひとつ便利になると、一つ不便になる」という大正生まれの父が言っていた言葉です。父はクシ力を持っています。

せんでした。「プラスチックのカードで買物が出来るのが分からない」と言っていました。確かにカードだといふ買物し過ぎます。パソコンは便利ですが漢字を忘れます。

文明はどんどん進化して電化生活、ネットの恩恵を十二分に享受し便利、三昧の暮らしをしている私ですが、せめてもの思いから電気ポットを鉄瓶に変え、電子レンジとは決別し冷やご飯はお鍋で蒸しています。なるべく葉書を書いています。

一時間を惜しまずに居たら、蝙蝠さんたちが帰ってきてくれるような気がするからです。

ている。だからこそずっと続いておるのだと思うぞ」と仰いました。その話を聞いて、これこそまごころのご馳走だと感心したそうです。人間にとって、まごころ、嘘いつわりのない誠の心は大切なもの。お念佛も誠の心で申すことが大切です。法然上人も「大勢の中にも念佛は申され候 独り居るときにても念佛は申され候 独り居るときにても申される時は喜ぶべし」と云われており、人に聞かせるのではない、人に見せるのではない、独りの時にこぼれるお念佛は誠の心から出る本当のお念佛ですよ、と示しです。誠の心で、日々お念佛に励みましょう。

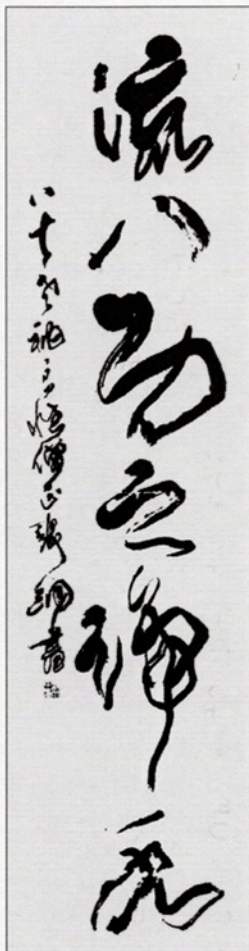
(知恩院布教師会ホームページより)

「流八功之浄水」

故林 錦洞書

貞林院瑞正寺 住職 林 清方

行草書で書かれたこの作品は平成十四年に先代が八十歳



小納とは僧侶が自分を謙遜して使う言葉で良性僧正は先代がよく好んで使っていた字です。

浄土宗の根本經典の傘寿を迎え、大本山増上寺の御忌唱導師を拝命した年の作品です。「八功の浄水を流す」と読み、添え書きには「八十才小納良性僧正錦洞書」と書かれています。

の一つであり極楽浄土の様子を説いた「阿弥陀經」には「有七宝池 八功德水 充滿其中」というものが出てきます。極楽には七つの宝のできた池があり、八つの功德がある

秋の彼岸法要ご案内

本年の秋の彼岸法要につきましては左記のとおり行います。

檀信徒におかれましては、どうぞ法要にご参加下さいますようお願い申し上げます。

塔婆をご希望の方は、お早めに電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

記

九月二十三日（火）正午

塔 婆 料 三 千 円

回向料（お布施） 志 納

塔婆料と一緒にお納めください

「寺からのお願い」

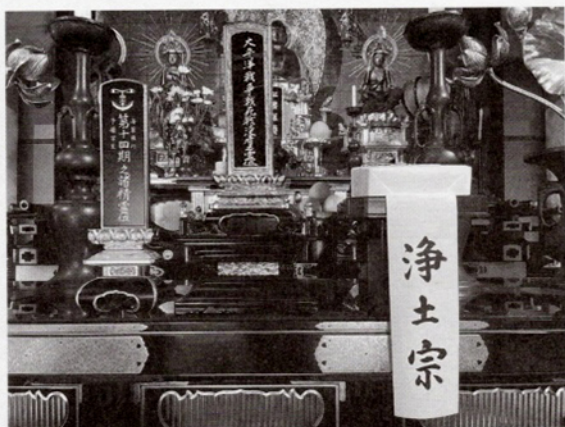
年回のご法事の際は、ご供養される仏様のお位牌とお写真（大きい物でも小さい物でも構いません）をお持ち下さるようお願いいたします。

なお、お申し込みの際は大体の人数もお伝え頂きますようお願いいたします。

「終戦八十年戦没者慰霊法要を厳修」

本年は終戦から八十年を迎えました。この大戦では軍人と民間人を合わせて約三百万人もの方々が亡くなったと言われています。浄土宗では七月十五日に総本山知恩院におきまして「第二次世界大戦終戦八十年追悼・平和誓願法要」が営まれました。

当山におきましては七月十三日と八月十三日の二度に渡り、お盆法要に併せて「終戦八十年戦没者慰霊法要」を行いました。この法要については事前に浄土宗に実施をする旨の申請をしていることから、宗よりお香が届けられました。



「お位牌と浄土宗より送られたお香」

浄土宗の根本經典の一つである

「無量寿經」の中には

「天下和順 日月清明 風雨以時

災厲不起 国豊民安 兵戈無用

崇徳興仁 務修礼讓」と言うも

のがあります。

これは「祝聖文」と呼ばれ、お

寺では元旦や本堂の落慶式など、

お祝いの行事でよくお唱えされる

お経です。意味は「国中が平和で

太陽と月が輝き 時には風が吹

き雨も降り 災害や疫病もなく

国は豊かで民は安らかに 兵隊も

武器も無用で 人々は徳を崇め仁

を興し 礼儀と謙虚を尊ぶ」と言

うものです。

二千五百年前からお釈迦さまが

このように説かれておられるのに、

今だに世界では紛争や戦争が絶え

ることがありません。

本年八月の産経国際書展には、

恒久平和の願いを込めてこの「祝

聖文」を作品として書かせて頂き

出品をいたしました。人類が是非

お互いにこのような気持ちで共存

できたら素晴らしいことと思いま

す。